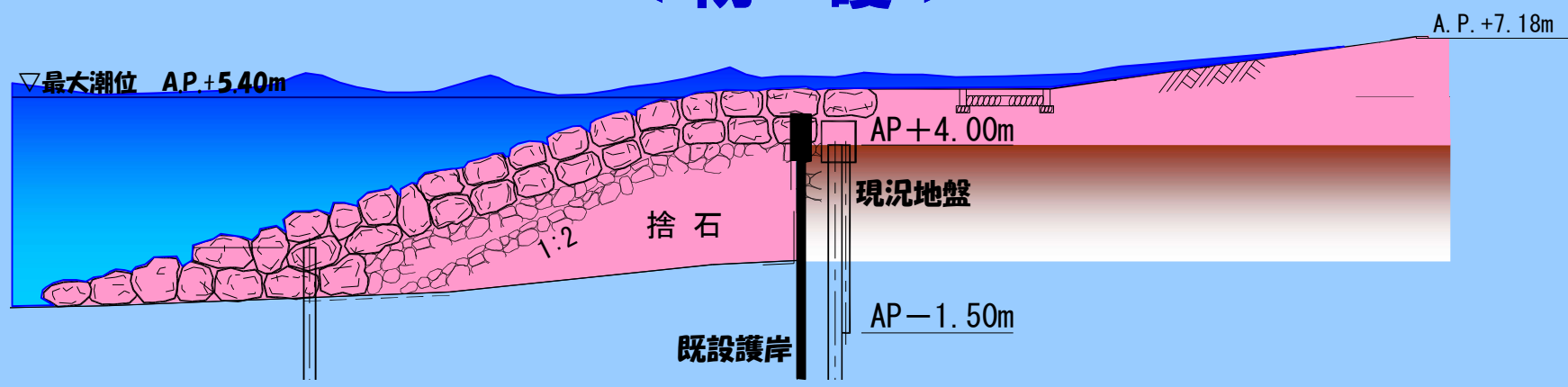


2丁目200m区間の施工着手から2年後の 検証・評価

< 防 護 >



平成30年 1月

1. 塩浜2丁目200m区間の工事の実施状況

老朽化の著しい900m区間の護岸改修を先行して進め、H25年度に完了した。

H27年度より残された200m区間（実延長は183.4m）の整備に着手した。

H27年度

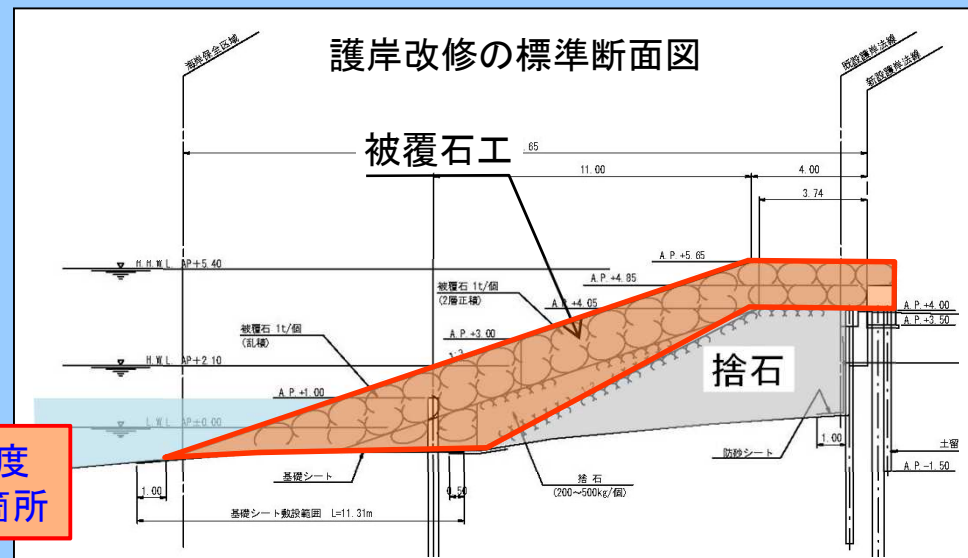
- ・ 捨石工 148m
- ・ H鋼杭（海側・陸側） 35m

H28年度

- ・ H鋼杭（海側） 130.5m
- ・ H鋼杭（陸側） 131.0m

H29年度

- ・ 被覆石工（海側） 148m
- ・ 被覆石工（陸側） 148m



今年度
施工箇所

現地施工状況写真(今年度海域工事完了時)

200m区間(陸上より撮影)



200m区間(海上より撮影)



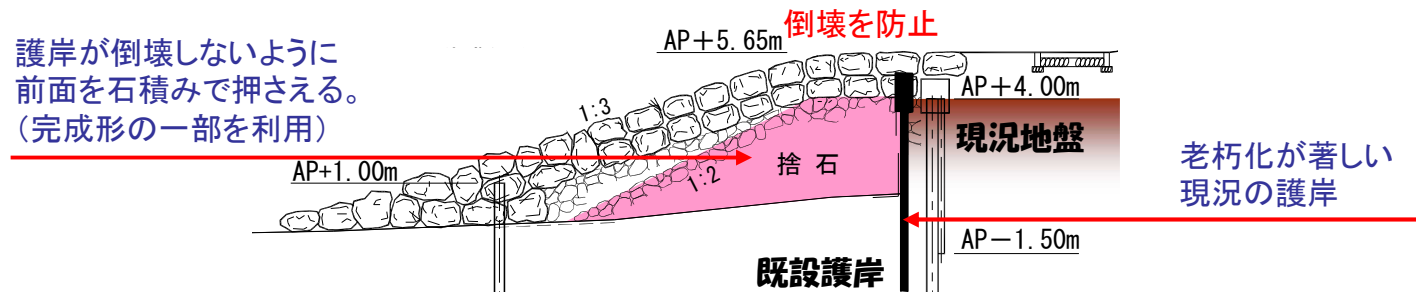
- ・被覆石工(海側) 148m
(H29年9月時点施工完了)
 - ・被覆石工(陸側) 148m
(H29年11月以降施工)
- ※写真撮影時は海側被覆石のみ

2. 地域の“防護”に関する検証・評価

(1) “防護”に対する4つの指標

① “緊急対応”への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。

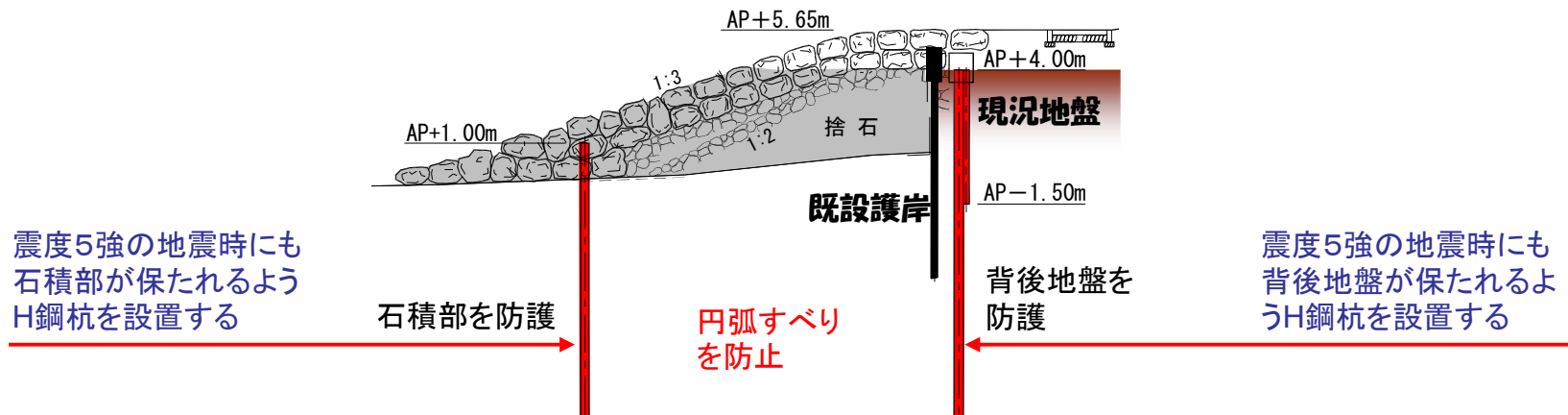
◇老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。



② “耐震”への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。

◇震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する。

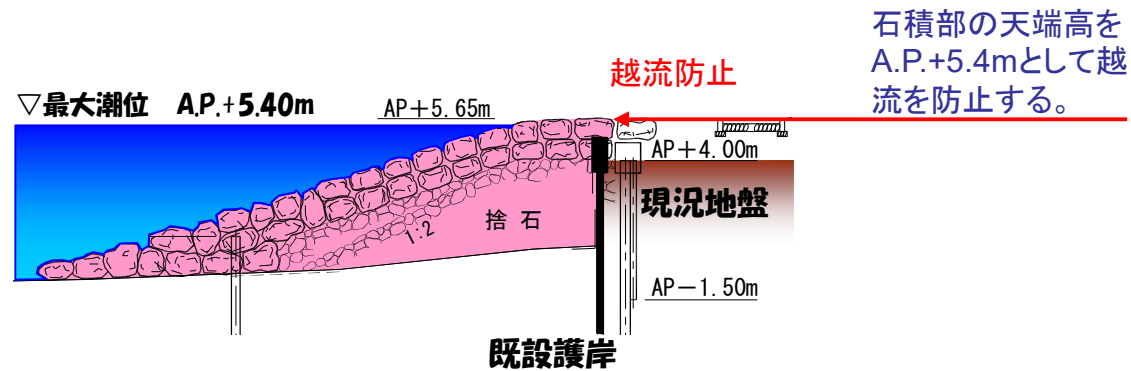
◇ “ ” 背後地盤が “ ” 。



③ 最大潮位での”越流防止”への指標

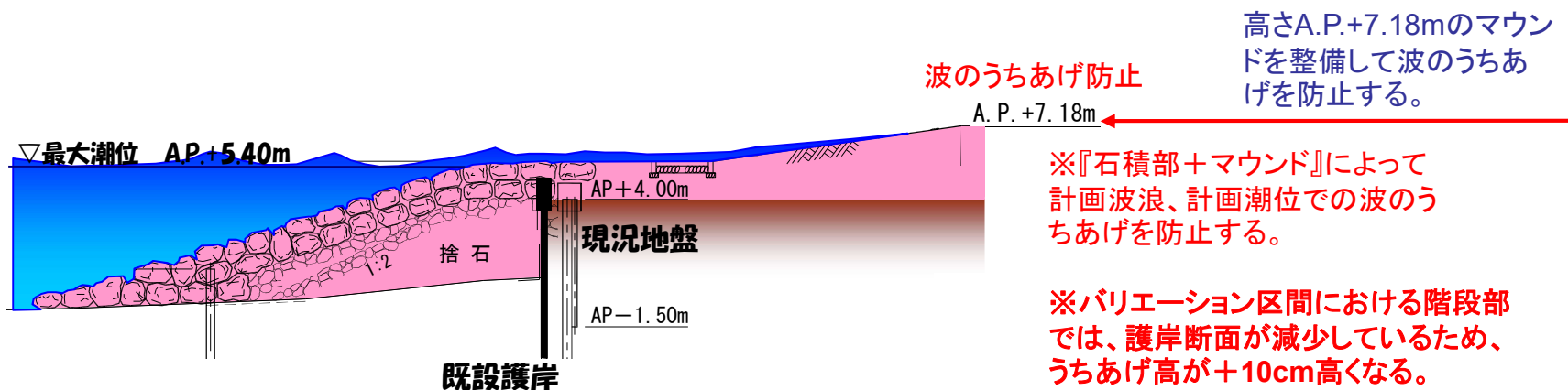
: 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。

◇A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。



④ ”高潮災害防止”への指標 : 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。

◇高潮時にも波が背後地に及ばないようA.P.+7.18mの高さのマウンドを護岸背後に整備する。



(2) 検証基準

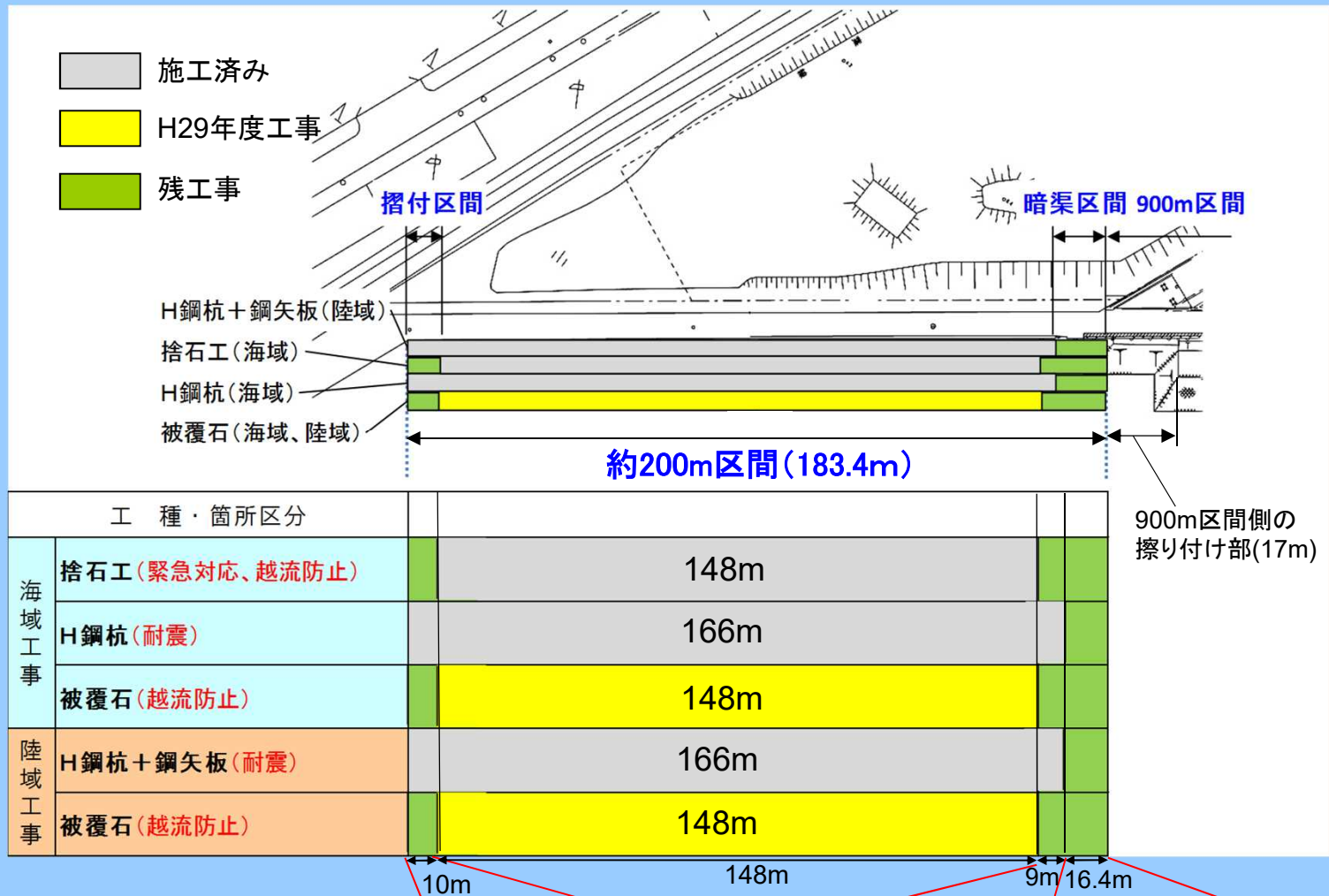
目標達成基準

高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保すること。

| 検証項目 | 目標達成時期 | 検証場所 | 基準とする値 |
|---------|-------------------|-------------------|---|
| 防護の確保状況 | 平成30年度 ※完成目標年度 | 塩浜2丁目 (200m区間) | 地域の防護に対する4つ指標がそれぞれ施工延長200mにわたって、 ①緊急対応への指標 100% ②耐震の指標 100% ③越流防止への指標 100% ④高潮災害防止への指標※ — を確保すること。 |

※:④のA.P.+7.18mまでの背後地の高さの確保は、背後地のまちづくりと調整中である。

(3) H29年度工事の検証結果(施工状況)



| 工種・箇所区分 | | 実績 | 状況 |
|---------|----------------|------|----|
| 海域工事 | 捨石工(緊急対応、越流防止) | 148m | |
| | H鋼杭(耐震) | 166m | |
| | 被覆石(越流防止) | 148m | |
| 陸域工事 | H鋼杭+鋼矢板(耐震) | 166m | |
| | 被覆石(越流防止) | 148m | |

| | 実績 | 状況 | 実績 | 状況 | 実績 | 状況 | 実績 | 状況 |
|-----------------|----|--------|----|--------|----|--------|----|------|
| ①緊急対応(捨石工) | 無し | 0.0% | 有り | 100.0% | 無し | 0.0% | 無し | 0.0% |
| ②耐震(H鋼杭:海陸) | 有り | 100.0% | 有り | 100.0% | 有り | 100.0% | 無し | 0.0% |
| ③越流防止(+5.4m) | 無し | 0.0% | 有り | 100.0% | 無し | 0.0% | 無し | 0.0% |
| ④高潮災害防止(+7.18m) | — | — | — | — | — | — | — | — |

※上表の①～④の検証については、(区間ごとの進捗率)×(区間延長/全体延長)の合計で算出する。

(4) H29年度工事の検証結果(指標ごと)



① "緊急対応"への指標 : 既設護岸の補強に必要な石積が確保されたか。
◇老朽化した現在の護岸の倒壊防止を図る。
⇒ [(0% × 10m) + (100% × 148m) + (0% × 9m) + (0% × 16.4m)] ÷ 183.4m
⇒ **81/100**

② "耐震"への指標 : H鋼杭(海側、陸側)が打設されたか。
◇震度5強の地震時にも石積部が保たれるようH鋼杭を設置する。
◇ " " 背後地盤が " "。
⇒ [(100% × 10m) + (100% × 148m) + (100% × 9m) + (0% × 16.4m)] ÷ 183.4m
⇒ **91/100**

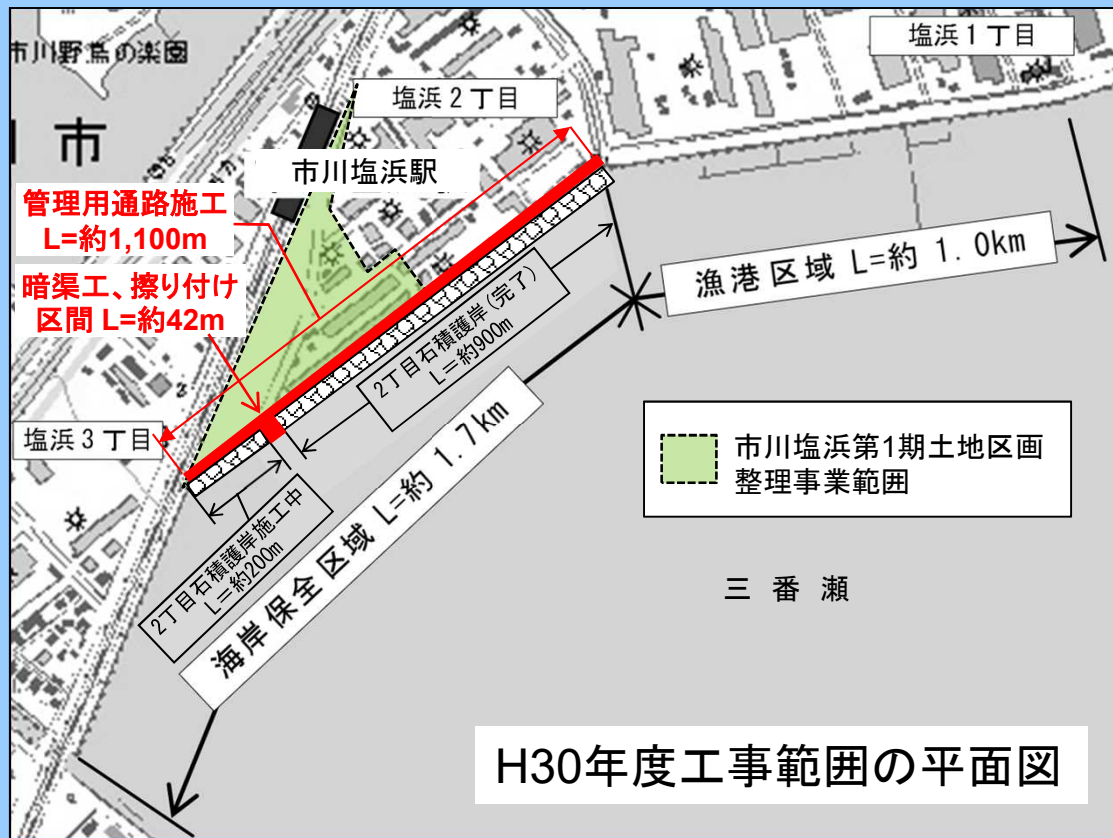
③ 最大潮位での"越流防止"への指標 : 石積堤の高さがA.P.+5.4mに達しているか。
◇A.P.+5.4mに達する最大潮位でも越流しない高さの護岸とする。
⇒ [(0% × 10m) + (100% × 148m) + (0% × 9m) + (0% × 16.4m)] ÷ 183.4m
⇒ **81/100 (予定)**

④ "高潮災害防止"への指標 : 背後地のマウンド高さがA.P.+7.18mに達しているか。
◇高潮時にも波が背後地に及ばないようA.P.+7.18mの高さのマウンドを護岸背後に整備する。 ⇒ **背後地と調整中**

(5) H29年度工事による防護の評価

| | |
|---|---|
| 目標達成 基準 | 高潮等の災害から背後地の安全を早期に確保すること。 |
|  | |
| 検証結果 | <ul style="list-style-type: none"> ① "緊急対応"への指標 ⇒ 81/100 ② "耐震"への指標 ⇒ 91/100 ③ 最大潮位での"越流防止"への指標 ⇒ 81/100 ④ "高潮災害防止"への指標 ⇒ 背後地のまちづくりと調整 |
|  | |
| 防護の 評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・①"緊急対応"は塩浜3丁目側端部の摺り付け部、行徳湿地につながる暗渠部を除き、完了した。 ・②"耐震"については暗渠部を除き完了した。 ・③"越流防止"は塩浜3丁目側端部の摺り付け部、行徳湿地につながる暗渠部を除き、完了した。 ・④"高潮災害防止"への指標については、後背地のまちづくり計画との調整を進め、高潮災害に対する安全確保を図る。 ・以上より、引き続き暗渠部の工事を進め、未施工区間を解消し①～③の指標への対応を進め、併せて背後地のまちづくり計画との調整を行い④高潮災害防止への対応を進めて、地域の防護を早期に図る。 |

3. H30年度工事の予定



H30年度工事の予定

- (1) 暗渠工および
暗渠部と石積み護岸の
擦り付け区間の施工
延長:L=約42m
- (2) 管理用通路
延長:L=約1,100m

